



白いこころ

「命から離れているからこそ」

中学生のころ、祖母が倒れて兵庫医科大学病院へ
慌ただしい家族の様子、緊迫した救急現場など
普段見慣れない光景に不安が募った

そんな気持ちを察してか

声をかけてくれた事務員さんがいた

「おばあちゃんのこと心配？ 大丈夫だよ」

その後、縁があつて同じ職場で働くことになった

受付で、患者さんやそのご家族の対応をするのが普段の仕事
医師や看護師のように医療現場に直接関わることはない

それでも

命から少し離れているからこそ

患者さんに近い“こころ”で動くことができる

「大丈夫ですよ、きっと良くなりますよ」

昔の自分に言ってくれた事務員さんの言葉が重なる

事務員(診療支援課勤務)幸田 雅美